



私たちが感じてきた石の魅力を伝えたい

4年1組では総合的な学習の時間に学んできた石について、自分たちが感じてきた魅力を他のクラスの人達にも伝えたいという思いから、石のミュージアムを開くことになりました。石の紹介カード、石のクイズ、石の体験、顕微鏡で見た石、石のでき方、石のアクセサリ、石の歴史、学校で採れる石、など、それぞれ自分が感じている石の魅力をまとめました。どうしたら、相手に伝わるのか、低学年の子にも分かるようにするにはどうしたらいいのか、そんなことを考えながら活動している子どもたち。面白いのは、こうして誰かに伝えようとまとめていると、これまで見えていなかったものが発見できたり、新たに調べたくなるものが出てきたりと自分たちにとって新たな学びの場になっているということです。「石の比重を調べてみたい!」「顕微鏡ですごいものが見えた!」「石って昔はこんなことに使われていたんだ!」など、発見を楽しむこの時間が心地よいです。しかし、実は、このミュージアムを行うと決めたときは「石の魅力は伝えたいけど、自分たちが発見したものだから教えたくない気持ちも少しあるんだよな」というような声も聞こえてきました。それは、その子にとってこの1年の中でたくさんの石とかかわり、石の魅力を知る中で、石がただの石ではなく、石はわたしにとって特別なものになっていったからだと思うのです。「石」は、他の人にとってみればただの“石ころ”かもしれません。でも、4年1組の子どもたちにとっては“石様”と呼ぶくらい素敵な宝物になっています。どんなことも、見つめる先に面白い世界があり、そこを深めていくことで私たちの生活は豊かになり、私自身の幸せにつながっていく。そんな大切なことを子どもたちの姿から学んでいます。



石ミュージアム開催

参観日で保護者の方に石ミュージアムを見ていただきました。見てもらえて嬉しそうにしていた子どもたちでしたが、次の日に「どうだった?」と聞いてみると、子どもたちの口から出てきた言葉はそのほとんどが“課題”でした。「お母さんに聞かれたけどどうまく答えられないことがあったから、もっと調べてちゃんと分かりやすく答えられるようにしておかないと」「調べたことをまとめてポスターにしたけど、あまり来てもらえなかったからもっと体験できるようなことも入れた方がいいと思う」「お客さんが迷わないように並ぶ位置も決めた方がいいかも」「どこで何をやっているのか分かるように入り口に案内のポスターも作った方がいいよね」と、石ミュージアムの開催に向けて、来てくれる人を楽しませたいという思いをもって語る子どもたち。自分たちでどんどんと考えて動き、参観日の時よりもさらにバージョンアップしたミュージアムになりました。問題はお客さんが来てくれるかどうか。できるだけ多くの人に自分たちの学びを見てもらいたいと願い、そのためにどう伝えたらいいのか一生懸命考えて臨んだ学級訪問。1～6年生の各学級に訪問へ行くと、多くのクラスが見学に来てくれることに!子どもたちの気持ちもより一層高まっていきました。そして、いよいよミュージアムの開催です。「来てくれるのがすごく楽しみだけど、楽しんでもらえるかがちょっと不安だな」とつぶやいている子もいましたが、最初のお客様の2年1組さんが「よろしくお願ひします!」と大きな声で入ってきてくれると、子どもたちの緊張も少し和らいだようで、それぞれのブースから「〇〇体験いかがです

かー！！」「〇〇クイズやってみてください！！」など、威勢のいい声が聞こえてきました。回を重ねることに子どもたちの熱気はどんどん上昇していきました。驚いたのは、一つのクラスが終わるたびにどのブースでも新たな工夫が加わっていくことでした。もっと「分かりやすく伝えるにはどうしたらいいのか」「もっと興味をもってもらうにはどうしたらいいのか」と1回1回振り返りながらお客様を迎えていた子どもたち。そして、お客様に伝えていく言葉もより分かりやすくなっていきました。こうして誰かに伝えると自分たちに返ってくるものも大きく、この1年間の学びをより実感できたように思います。

休み時間もたくさんの人たちが来てくださり、石ミュージアムは大盛況でした。「疲れたけど、これは楽しい疲れだね」とKくん。来てくれた人たちの「楽しかった！」「石ってこんなにすごいんだ！」「石に興味をもつことができた！」という声が子どもたちの自信にもつながったと思います。「石」を対象として、これだけの見つけ方ができ、これだけ学びを広げていった子どもたちは本当に素敵だなと思いました。

